

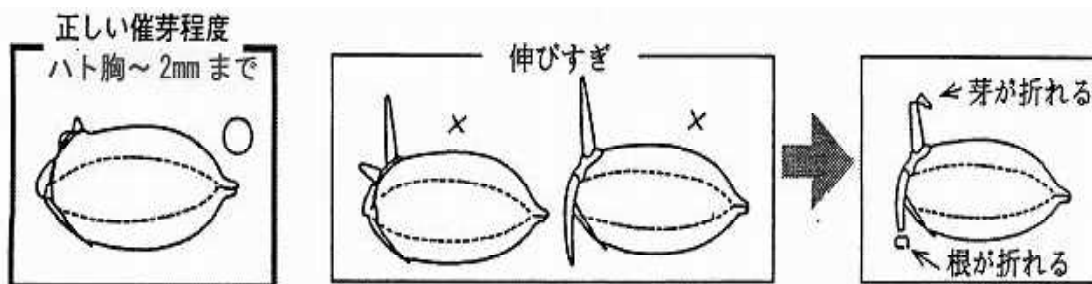
1 置床の整地は丁寧に行いましょう

置床の整地不良により、育苗箱との密着が悪いと、床土の乾湿により苗の生育がムラとなります。置床をしっかりと乾燥させ、砕土を丁寧に行いましょう。

2 発芽を均一にするためには

良い苗づくりには発芽を揃えることが重要です。基本技術を励行しましょう。

- (1) 種籾袋には袋の5～7割程度の籾量にとどめる。入れ過ぎに注意！
- (2) 水温は10～15℃程度にし、直射日光を当てない。
- (3) 種子消毒する場合は、使用基準を厳守する。
- (4) 種子浸漬の目安す・・・平均水温11～12℃で5～6日
- (5) 催芽の長さはハト胸から2mmまでにする。
- (6) 催芽の適温を32℃に保ち、催芽までの時間は20時間前後で仕上げる。催芽状況を確認する！



3 「は種量」を守りましょう

- (1) 催芽した種籾を均一には種するため、籾表面の余分な水分を取り除く。
- (2) は種前に必ずカラ箱には種し、軽量カップ等で「は種量」の調整を行う。籾の乾燥程度によって「は種量」は変わるので、は種機の調整を行う。
- (3) 床土、覆土量の調整を適確に行う。

表 育苗様式とは種量

	中 苗		成 苗
	箱マット	型 枠	みのる成苗ポット
催芽籾 (ml/箱)	150～200	150	70程度

4 水田ほ場にケイ酸資材を

ケイ酸資材を散布することによって、蛋白含有率が低下し、食味の良い稲になると共に、「いもち病」「褐変穂」の抵抗力を高めます。